

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	<小・49> いわき市立渡辺小学校					
<実施日>	平成 28年 7月 15日(金)					
<実践教科等>	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。					
1 理科	① 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他()			
<実践内容>						
1 はじめに	<p>児童が生活する渡辺地区は、田畠や山などの豊かな自然に囲まれている。児童は、自然に親しみ、自然の恵みを受けながら、自然と関わり合って生活してきた。しかしながら、東日本大震災後は、放射線の影響を考えて、外での活動を制限しなければいけない時期もあった。現在は、様々な活動において、震災前と同様の状態に戻ってきている。とは言うものの、児童の安全な生活を確かなものにするためには、児童の発達段階を考慮し、放射線についての正しい知識を身に付けさせることが大切と考える。</p> <p>そこで、今年度も、渡辺町在住の浄水処理水質アドバイザー、久保木伸一さんをゲストティーチャーにお迎えして授業を実施した。</p> <p>※ 久保木さんは、学校評議員で、作物の放射線測定や地域の放射線の測定を行っている。また、県内の放射線に関する研究にも携わっている。</p>					
2 学級活動 「放射線について学ぼう」						
3 実施学年 第3・4学年						
4 本時のねらい	<p>○ 放射能についての正しい知識を身に付け、安全な生活を送ろうとすることができる。</p>					
5 授業の流れ	<p>(1) 放射能ってなあに！(放射線の性質) (2) なぜ放射能がふえた？(福島第一原子力発電所の爆発事故について) (3) 渡辺町の放射能はどうなの？(渡辺小学校のどこにどの位あるのか) (4) こんなことに注意してね！(生活の中で気を付けること)</p>					
<成果>						
<p>○ ゲストティーチャーの久保木さんが、本校の様々な活動に協力いただいている方なので、児童が親近感を持って授業に臨み、疑問点について積極的に質問して理解を深めることができた。</p> <p>○ 児童の感想から、生活の中で注意していくことについての理解の深まりが見られたので、ねらいに迫ることができたと考えられる。</p>						
<課題>						
<p>○ 震災から5年が経過し、放射線に対する意識が薄らいできているように感じるが、今後も、久保木さんのような専門的な知識をお持ちの方にご協力をいただいて、児童に放射線に関する正しい知識を身に付けさせ、自分の身を守りながら安全な生活を送れるようにしていくことが大切だと感じる。</p> <p>○ ゲストティーチャーが、詳しい資料を準備してくださった。しかし、3・4年生には内容的に難しいところもあったので、打ち合わせを十分に行い、学年の実態に合った指導内容で、授業を行うようにしていきたい。</p>						
資料作成担当者職(教諭) 氏名(男庭 幸恵)	学校電話番号(96-6042)					

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先 : kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)